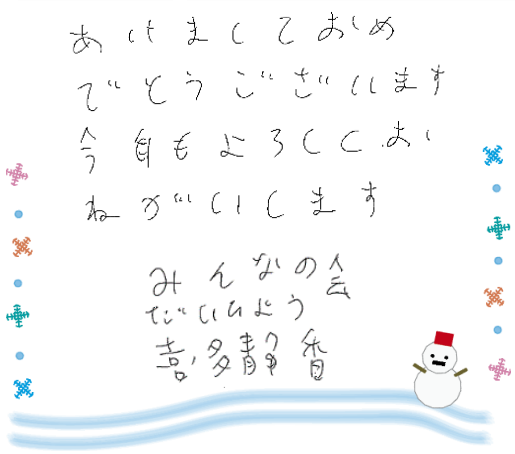
KSKS 花の会ニュース

２０２２年１月号
no.191

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB http://www.hananokai.info/　★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円



花の会 学習会（オンライン講座）

テーマ
「家庭における権利擁護」

～ 親だからできること、
気をつけないといけないことは何だろう ～

講 師：フィールド・サポートｅｍ.
代表理事　栗原 久 氏
日 時：2022 年 2月 26 日（土）
10:00 ～ 12:00
参加費：無料

※ オンラインのみで配信

お申込み・お問い合わせは
共働舎花の会
電話：０７２－６９２－２８５９
ＦＡＸ：０７２－６９３－３６０３
E-Mail：kyodosya@hananokai.info

雑感

新年を迎え、今年もよろしくお願いいたします。

◆この「花の会ニュース」の編集を変えることとなった。メンバー、ご家族、職員に登場・発信いただき、「今」を皆さんと共に考えたい。コミュニケーションの大切さが叫ばれ、コミュニケーションができない、苦手な人は取り残されているが、皆がうまくしゃべれるわけがあるはずもない。話し下手は、市場社会では落ちこぼれ扱いとなる。そんな社会を、当事者・職員の声からひろってみたい。

◆昨年、気になったこと。３月３日。ミャンマーで軍事クーデターに抗議するデモの最中、19歳の少女(通称)エンジェルさんが後頭部を銃で撃たれ亡くなりました。27日には７歳の少女がこれも軍人に射殺されるという事件がありましたが、コロナ禍なのか振り返られることが少なかった。また、香港の状況が伝えられ、反逆の烙印を押しまくる権力の異常さと、命を懸ける若者の無念さを感じ取りたい。沖縄の辺野古を含む全島の無念さも忘れるわけにはいかない。かつて、私たちも経験してきたこと。声が小さくならないことを望む。

◆支援の個別化が打ち出されている。人それぞれ違うのは、誰もが認めるところだろう。個別化は、上から降りてくるものではない。人はみな、関係性をもって社会を作っている。それが、どのような関係なのかを飛ばして個別化を押し付けるならば、従来と何ら変わらない。変えるべきは関係性であり、私、あなた、が変わることから始めるべきです。

　メンバーの日常は、日中活動の場、生活の場、余暇の時間、繋がったものでバラバラには考えられない。この当たり前のことがGHの制度再編では、置きざりにされてしまう。変化に対応する時間はあまりないと感じるようになった。速度が必要だ。

（やまだのかかし）

「お話、聞かせて」

森田　政之さん
第４共働舎花の会（スイートピー）

森田政之さんのプロフィール

- 1967 年生まれ　54 歳
- 地元の小・中学校から、高槻養護学校（現支援学校）を卒業後、福祉作業所「花の会」へ。
- 「共働舎花の会」を経て、現在はリサイクルショップ「スイートピー」（生活介護事業所）にて活動中。
- 2003 年よりグループホームに入居。

Q森田さんのことをいろいろと教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。
　早速ですが、学生時代の話を聞かせてもらえますか。

森田：はい。

Q小学校時代の思い出はありますか。

森田：体育、木工いろいろやってた。本箱作った。先生はH先生。N君、Rちゃんと。ブランコ、楽しかった。

Q中学校時代はどうでしょう。

森田：教頭先生といっぱいしゃべってた。何の話をしたか覚えてない。園芸（花壇で花を育てていた）、木工、音楽、体育。バスケットボールと陸上（走るのが得意だった）。

Q中学校を卒業して、どうされましたか。

森田：養護学校や。剣道部のキャプテンした。学校終わってから、腹筋、ランニング、なわとび…。（とても、嬉しそうな表情でした）

Qそのあと「花の会」に来られたんですね。「花の会」でいろいろな仕事をしてきたと思いますが、今までどんなことをしましたか？

森田：缶つぶし、（缶の）分別、印刷、花の会クッキーとかの販売。

Qどの仕事が好きでしたか？

森田：缶つぶし。

Q学校販売（高槻市内の小・中学校や保育園等での自主製品販売）にたくさん行ったと思いますが。

森田：うん。荷物が重かった。石鹸、クッキー、さをり、野菜。

Q畑で作った野菜をたくさん売っていましたね。

森田：Cさん（共働舎花の会在籍時の担当職員）といっしょにがんばった。Dさんもや。お金稼がないとあかんから。

Q学校販売でうれしかったことはありますか。

森田：「販売」に行ったら、H先生おったから。小学校の（時の）担任の先生。

Qなつかしい先生に会えたんですね。

森田：うん。

Q一番大変だった仕事は何ですか。

森田：（畑の）草引き。しんどいわ。

Q今はお店（リサイクルショップ）の仕事ですが、どんなことをしていますか。

森田：今日は（物品の）回収。Yさん、Kさんと行ってきた。（物品が入っている）袋をいっぱいもらった。

Q車で行ってきたんですね。お疲れ様です。
　缶つぶしの仕事が楽しかったそうですが、（アルミ缶リサイクル作業をしている）共働舎花の会に戻りたいですか？

森田：いや、行かへんよ。

Q今は、お店がいいんですね。

森田：うん。

Qじゃあ、スイートピーのみんなとは仲良くしているんですね。

森田：Aさんはものの言い方がきついわ。Bさんは優しいけど。

Q仲がいい人は誰ですか。

森田：Ｋちゃん（女性メンバー。作業所時代から一緒に過ごした方）。体が悪いから、助けてあげんと。

QＫさんとは、今は（法人内の）違う事業所になりましたね。でも、今もそんな気持ちでいるんですね。

森田：うん。

Qグループホームのことも聞いていいですか？

森田：ええよ。

Qグループホームでは、何人で生活されていますか？

森田：Ｋさん、Ｎさん、Ｅさん。

Q４人で暮らしているんですね。

森田：Ｅさんの誕生日会した。ホームでカラオケ歌った。「高校３年生」歌った。

Q誕生日会は楽しそうですね。そういえば、森田さんの誕生日会（８月）は、恒例イベントがあるんですよね？

森田：みんなで花火するから。

Q休みの日は、どうされていますか。

森田：ＤＶＤ（鑑賞。買うのも好き）とガイド（移動支援を利用して外出）。王子動物園に行く。自転車乗るところ（サイクルモノレール）があるよ。鏡のところ（かがみのお家）もある。

Q王子動物園が楽しかったんですね。他には？

森田：散髪も行く（整容にはいつも気を遣っておられます）。病院（定期通院）はＴさん（ガイドヘルパー）と行く。

QＴさんがいっしょに行ってくれるんですね。最近、身体の調子は変わりないですか。

森田：うん。

Qこれから、やってみたいことを教えてください。

森田：お姉ちゃんとお墓参りに行きたい。

Q長い間行けていないんですね。

森田：コロナで会えないから。落ち着いたら一緒に行けるように約束してる。

Qお母さんが亡くなられてから、家に帰っていないのですか。

森田：帰ってないよ。

Qお姉さんも遠くに住んでおられて、なかなか会うことができないんですよね。

森田：うん。

Qお墓参りに行けるよう、職員と相談していきましょうか。

森田：はい。

（取材：山口　由美子）

●最近のおススメ DVD タイトル
（膨大な DVD コレクションから）
１：「ドラえもん」
２：「クレヨンしんちゃん」
３：「３年Ｂ組金八先生」
※（気が向いたら貸してくれるそうです。）

●コロナウイルス感染予防で取り組んでいることは？
１：うがい
２：手洗い
３：マスク
※ 毎日やってます！

お母さんは考えている！！

樺島さん、平居さん
児童のお母さん

樺島美知子さんのプロフィール

小学１年生の女の子、小学６年生の女の子の母。「いい　かげん」をモットーに子育て奮闘中。人見知りで人前で話したりするのは苦手ですが、ママ友とのおしゃべりなら自信あり。

平居亜希子さんのプロフィール

小学4年生の女の子、小学６年生の男の子の母。趣味はバドミントン、野球観戦、おしゃべりなど。ママ友とのおしゃべりで、ストレス発散してます！

樺島さん

平居さん

Q今回の企画について。

樺島：子どもとの向き合い方、どうしたらいいのか分からず声を出せず悩んでいるご家族の方々に、一歩一歩前に進んでみませんか？という思いがあり、（平居さんも）一緒にと誘ったら、「喜んで」ということだったので。（みんな笑）一歩を踏み出す、助けを求めることは大切だし。一人で抱え込んでも何にも解決しないなぁと。

平居：友達同士でもいいし、相談支援の方、さくらクラブの方、そういう職員の人に話す。抱え込むより発信する方が、私はストレスの発散になるかな。

樺島：でも、発信できる場所って分からず、どこに相談したらいいんだろう？から始まった。私は保健師さんと相談していたら、「パンダ教室に入れた方がいい」と言われて。最初「自閉」「療育」という言葉も分からへんかったけど、「おいで」って言われたから、言われるがままに行ったら・・話を聞いてくれ、療育の幅が広がり、いろんな情報を聞けた。

平居：調べていくうちに、早期療育がいいと知った。Ｓ事業所を紹介され、その後「うの花療育園」へ。参観が月１回ほどあり、話ができるようになり、同じ悩みを抱える人がつながることができた。

樺島：「自閉」という言葉に引っかかった。自分に閉じこもるという字やから・・部屋の隅っこにいる・・というイメージ。聞かれても、説明が難しい・・自閉ってめっちゃ広く、よく「わがままじゃないの？」と言われた。

平居：辛いなぁ。

樺島：「それって障害なん？」って言われて・・・どう説明したらいいのか。

平居：よく言われたのが、「誰でもそういうことあるやん」ということ。

樺島：どこが違うのかというと、上手く説明できない。わがままなんちゃうか、甘やかしているんじゃないか。祖父母世代の方からはしつけが悪いと言われる。

平居：いろいろと(自分で)チャレンジはしたけど・・、難しい。

樺島：同じような悩みを情報共有することで、どんどん引き出しが広がっていく。

平居：情報共有をする中で、多くのことを教えてもらった。

樺島：「療育」は、長い目で見る必要があるかな。短いスパンでは、役に立ったか分かりにくい。子どものため・・というか、親のためでもあるし･･･育児の悩みをしゃべって発散。たくさんのことを学んだ。どこにも言えなくて困っているお母さんは、ぜひアプローチしてほしい。相談できる、話を聞いてもらえる、力を貸してくれる場所を探し、一人で抱えないようにしてほしい。たとえ自閉と診断されても、言われたことは変えようがない。

平居：個性とうまく付き合うために、病院、保健師、事業所・・アイデアをもらいながら、子育てしてい

かないとね。

樺島：悩まないでほしい、というのが一番。幼少期、診断されて間もない時は、悩むところは多い。子育ては、すぐに結果は出ない。長い目で見ないと。子育て、生活の中で、いろいろな引き出しが見つかる。その子にあった方法を探す。それは一人ひとり違うから。

平居：他人の子と比べてしまうことがあるのかな。成長スピードは違うが、成長しないわけではない。

樺島：「勝手に育つよ」と思う。特別何かをしてもらったというより、周りに助けてもらったと感じる。一緒に頑張っていく、言い合える仲間を作る。一人ではしんどい。悩まず、いろんなきっかけ・・例えば懇談に参加するとかでも一歩踏み出している感じはする。あとは、親だけで集まれるような交流できる場所があるといいな。さくらクラブの庭（駐車スペース）に椅子を並べて・・（使っていいかな？）みんなでしゃべりたいと思うし。（笑）

Q伝えたいメッセージがあれば・・。

樺島：私は利用者とスタッフ（支援者）は対等な関係と思っている。子どもの面倒を見てもらっている、利用させてもらっているから、（スタッフに）言えない、負い目があるという話を聞く。子どものためを思うのであれば、スタッフになぜ言わないのかなと。

平居：負い目は感じたことはないな。性格上かな。（笑）

樺島：福祉、療育に関わる仕事は子どもが好きだからといってできることではない。昔、ボランティアをしていた時、「この人たちは障害を持っているから助けてあげよう」という、上から目線のボランティアグループに所属していた。「全部やってあげる」という自己満足のボランティア。そんなこともあり、福祉に関わっている人のイメージはよくなかった。「障害」という言葉も好きではない。「障害があるからできない」と可能性を奪われることもあった。差別、区別・・“障害を持った人も共存共栄しよう”と言いながら、自分自身もどうなのか・・立ち止まって考えることもある。

平居：変わっていることがあかんという社会・・そこがね、ひっかかる。「みんなと一緒じゃないとダメ」ではない。みんながみんな、それぞれ変わっている。（笑）

樺島：なんで、変わってて悪い？と私は言えるけど、子どもは言えない。そして世間の人は『「自閉」や「発達障害」と言われる人＝事件を起こす人』と思う人もやっぱりいる。結構ショックだった。

平居：自分の中でのコントロールがうまくいかないと、こだわりが強く出たり、パニックになったり、ものに八つ当たりもすることもある。そのコントロールの仕方というのは、やっぱり小さい頃からの療育、様々な経験があって身に付いていくんだけど、そんな環境が何もないとなれば、気持ちの表出方法が難しいかな・・・。

樺島：世間一般からすると「障害者＝〇〇」のようなレッテルを貼っているように感じる。逮捕されてた人が、簡易鑑定・精神鑑定した結果「発達障害」は、後付け。やめてほしいと思う。生きにくさ、個性を理由にしないでほしい。

平居：それはあるかな・・みんな頑張っているし、苦しんでいる。私たちからすれば、「社会」が障害になっているとも思う。

樺島：社会の障害がなくなれば、もっとみんなが住みよい世界になるのかな。

紙面の都合により、お話いただいた一部を紹介させていただきました。

（取材：平田　昌史）

職員の声・支援への思い

立岩　信亮さん
フラワーホーム　世話人

立岩信亮さんのプロフィール

- 2017年にグループホームの世話人として入職。現在はＧＨ「つくし」の世話人兼地区担当者としても活躍。
- 趣味は漫画と釣り。お勧めの漫画は「フラジャイル」と「メイドインアビス」。
- ＧＨで働くようになって、目玉焼きとかきたま汁を作るのが上手になった、とのこと。

Q 入職の経緯は？

立岩：前の仕事は、資格を取ろうと思って辞めたんです。通信で資格の勉強をしながらできる仕事を探している時に、たまたま新聞折り込みで求人があったのを見て。

昼間に時間がある方がいいなと思って、ホームで働くようになりました。

Q グループホームでの一日の仕事の流れって、どんな感じなんですか。

立岩：16～17時くらいにメンバーが帰ってくるので、そこからごはん用意してお風呂入れて…って、メンバーの生活のサポートですね。

「14 時から次の日の 10 時まで仕事です」って言われたら、やっぱり拘束時間は長く感じますよね。でも、仕事中は一時も気が抜けんのかと言ったらそういうわけでもなくて。もちろんメンバーのことは気にかけつつですが、夜は仮眠もしますしね。拘束時間は確かに長いんですけど、まぁ細く長く、と言った感じで。なので気持ち的に余裕を持ちながら仕事をいています。

余裕がないとどうしてもきつい言い方や対応になってしまうと思うんですけど、メンバーにとってはグループホームって生活の場なんで…そこで世話人になんかきつく言われたりされるのって、違うと思うんですよね。

だから余裕を持つっていうのはすごく大事なことかな、とは思います。

Q 地区担当者をやってみて、その難しさはありますか。

立岩：苦労したのは、これまであんまり関わりが無かった世話人さんとのコミュニケーションですね。例えば、女性のホームの世話人さんとはそれまで全然関わりがなかったんで…。以前はフラワーホームって、退職者がめちゃくちゃ多かったんです。10 人入職して７～８人辞めるみたいな時期があって。やっぱり、なんか不満を持ってるんですよ。不満はあるけど、まぁべつに出さずに…不満を持ちながら続ける。でも続かないんですよね。いろんなことが積もってくるんで。

そういう不満の解決方法をできる範囲で提言して、解消できるようにしたいな、と思ってたんですけど、相手もこれまであんまり話したことない人にそんな込み入った話はしたくないですよね。

不満や悩み事を聞くまでの関係性を作っていくのは難しかったです。今も課題はいっぱいあるんですけど、やっぱりさしで話をすることかなと思います。

あとは、「言っても変わらん」みたいなんが他の世話人さんの中であったと思うんですよ。そこを「変えられるところは変えますから」って伝えて聞き取って、実際に変えられたこともある。変えたところを見てもらえば、相手も「あ、やってくれたんや」ってなって、話をしてもらえるようになりました。

やっぱり現場でやってる人が話を聞くのがいいんじゃないかなと思います。現場の人同士やったら距離も近いじゃないですか。

Q お話を聞いてたら、地区担当者としてと、世話人として、求められることってやっぱり違うなと感じたんですけど、それぞれのやり甲斐を教えて下さい。

立岩：世話人としてのやり甲斐は、やっぱりメンバーとの関わりですね。世話人同士よりメンバーと関わる方が多いんですよ。その中でメンバーにプラスの変化が見られた時とか、ご家族からお礼を言っ

てもらえた時とかはやり甲斐を感じますね。

なかなか普通の仕事で感謝されることって、あんまりないから。例えば洗濯物の取り込みの時とか…「自分のものは自分で取ろう」ってメンバーみんなに言ってたんですけど、昨日まで言ってもできなかったのが、ある日突然自分の洗濯物を取り込んでいてくれてたりとか。

そういう日常の小さな変化の積み重ねは嬉しいですね。

Q 地区担当者としてのやり甲斐、どうでしょうか。

立岩：関わりが増えることはいいことなのかなって思います。

世話人だけじゃなくて、担当している地区のメンバーもそうですし、そのご家族とも関わりができるっていうのはいいことだと思います。ご家族としても、相談窓口が増えるということにもなりますし。

地区担当者じゃなかったら、絶対今の段階では話せていない人達ばっかりです。

ご家族の方が、ホームのちょっとした修繕、ペンキ塗りとかをやってくれてはったんですけど、それを一緒にやったりとか。日曜大工的な感じで教えてもらいながら一緒にやったんです。そんな関わりとかもあって、私も勉強になりました。

Q それでは、グループホームで働く中で、立岩さんが大切にしていることを教えて下さい。

立岩：自分が支援で大切にしてることって、メンバーが選択する機会をなるべく作ることなんです。

些細なことだけど、ごはんをどの器にのせるかとか、服も、出かける時どの服着るかとか。そうやってたら、自分の着たい服を準備して出してたりとか…それは個人の主張と言ったら大げさかもしれませんけど、意思決定じゃないですか。それがあるから、「このメンバーはこの色の服が好きなんやな」とかが分かったりする。そういう選択の延長にある、一人ひとりのやりたいこと・希望を極力叶えてあげたいなと思ってます。

Q それでは最後に、立岩さんご自身の今後の目標があれば教えて下さい。

立岩：正職員になって３年目なんですけど、最初の頃に比べたら格段に仕事の量は増えているので、お給料は増やしたいですね(笑) なので昇進は目指してます。次に目指す役職としてはサービス管理責任者とかになってくるんですけど。

個別支援計画ってあるじゃないですか。個別支援計画を立てる時っていろいろ意見聞いて立てるんですけど、実際に動いていく時はなかなかそれに沿っていかないことが多かったりするんです。だから、サービス管理責任者になって、本当に本人の希望に沿った個別支援計画を作って、それをもとに現場の世話人さんと個別支援計画を軸にした支援をしていけたらな、と思っています。

立岩さんの支援や仕事観には、一貫して「本人の希望や意思を大切にしたい」という軸があるんですね。でもそれは、メンバーさんに対してだけではなくて、ご自身が担当している地区の世話人さんに対してでもあるんだな、と感じました。その思いが、メンバーさんの生活やフラワーホームの事業全体を支えているのだと思います。

今日は忙しい中でお時間をいただき、ありがとうございました。　（取材：田淵　彩子）

日中活動支援の報告　生活介護

花の会カレンダー販売、地域の方とつながり、あふれる笑顔

「2022 年カレンダー」を、たくさんの方にご購入いただき、誠にありがとうございます。

前回のカレンダー販売では、新型コロナウイルス感染拡大防止のためご挨拶を控えていたこともあり、今回はより一層の感謝とご挨拶を兼ねて、購入のお願いをしてまいりました。

あるパン屋さんでのことです。年末の押し迫った 12 月中旬、お店に伺い話を進めていくと、工房でパンを焼いている店長さんから、「花の会さんやね。カレンダー５冊いただきます。」と言ってくださいました。お渡ししたのち、従業員の方が仕事の手を止めて、カレンダーをその場で広げて見てくれました。

「12 月の絵、かわいらしいねー。」、「７月の作品は力作ですね。」など、絵の感想をその場で話してくださり、メンバー・ワーカー共に自然と笑みがこぼれました。話を聞いていると、従業員の皆さんに、年末のボーナスと一緒に花の会のカレンダーを渡されているとのことでした。

共働舎へ戻る車内では、「カレンダー売れて良かったね」や、「パン美味しそうだった」など、会話が弾んだことは言うまでもありません。

地域の方と交流する機会が減っている中、カレンダーを通して、束の間の交流ができたことがメンバー・ワーカー共に貴重な時間でありました。

今回、1,200 本作成し、1,150 本販売いたしました。　（共働舎花の会　大久保　美代子）

コロナ渦で、ミニのバザーを開催しました！

昨年の 11 月 13 日（土）にミニバザーを開催しました。普段のバザーよりかなり小規模ですが、アルコール消毒や人数制限など新型コロナウイルス対策をした上で実施することができました。

当日は天候にも恵まれ、気持ちよく買い物をしていただけたのではないでしょうか。買い物を終えた後、レジの前で「ありがとうございます」とメンバーが伝えると、お客さんも「ありがとう」と笑顔で返してくれます。バザーを開催することで、メンバーが地域の方々と交流できる大切な機会が生まれると思いました。普段も花の会ショップは開催していますが、やはりバザーとなると注目度が高まり、多くの方に参加していただけて嬉しい限りです。もちろん売上も大切ですが、それ以上に地域の方と交流する機会が少ないため、貴重な時間だと思います。そう考えていくと、地域の方々からご提供いただくバザー物品は、メンバーと地域とのコミュニケーションツールでもありますよね。これからも花の会とその地域が「ありがとう」と「ありがとう」の win-win な関係を築いていきます。

売上金は 107,170 円、来場者は 90 名でした。

（第２共働舎花の会　中原　和明）

赤い羽根共同募金の助成でマイクロバスを購入

「2021 年度赤い羽根共同募金助成金」で購入したマイクロバス ROSA が、10 月 13 日（木）に納車されました。総事業費 6,410,400 円、補助金 2,000,000 円。翌日から、マイクロバスの北コース送迎を開始しました。

車内でのメンバーの様子は、新しい車両ということもあり、みんなどこか嬉しそうな表情をしていました。今回の赤い羽根共同募金に関わってくださった多くの方々へお礼申し上げます。

（共働舎花の会　渡邊　朋幸）

児童通所支援の報告

おやつ作り、様々な気付きと学びの場に

「あじさいクラブ」、「さくらクラブ」、「あさがおクラブ」では、毎日おやつ作りをしており、「お菓子」だけでなく、その時期でしか味わえない旬のものを使った「おやつ」も作っています。寒い時期は白菜や大根で鍋やおみそ汁等の温かいおやつや、春になれば春キャベツ・新ジャガイモを使ったポテトサラダ、夏はきゅうりを使った漬物、秋には焼き芋等、日本には四季折々旬の食材があること、また日本に昔からある行事食を子どもたちに伝えながら、旬のものを食べることで体に良いこと等も話しています。

今週「あさがおクラブ」では、おやつに「湯豆腐」を作りました。だし汁に使う昆布を見せ、「これは何でしょう？」と聞くと子どもたちは「こんぶ？」「わかめ？」等口々に伝えてくれます。子どもたちの言葉を拾い「昆布はどこに生えている？」等様々な話を膨らませます。水を入れた鍋に昆布を入れていくのですが、「水がぶくぶくなってる」「昆布が泳いでる」「煙がでてる」と様々な気付きがあります。職員は答えをすぐに伝えるのではなく、子どもたちと一緒に考えるようにしています。小学校高学年の子どもは「理科の授業で習った！」と、水が沸騰したこと、煙ではなく湯気であること等を発表してくれ、子どもたち同士で教え合う姿があります。他にも「豆腐は何からできてるでしょう？」と聞くと「大豆！」と即答。子どもたちが知っている食材でも繰り返し伝えることで、大豆でできた食品はどんなものがあるか等みんなで話して理解を深めていきます。中には食べる前に「これ嫌い」と言っていた子どもが、自分で作った湯豆腐は格別のようで「おいしい」とペロリ。周りにいた友達が「すごい！」と拍手したり、「おいしいから頑張って食べて」と励ますお友達もいました。

このようにおやつ作りを通して季節の食材を知ったり、安全面や衛生面に加え、おやつを作る工程の中で子どもたちの創造力やみんなで協力する力を伸ばす等、いろいろ経験することが沢山あります。また、計量時、数字の理解が難しい子にどのように計量するか見守っていると、周りの知っている子が数字を教えます。自分で計量が「できた」ことで、また「できる」と、チャレンジする気持ちが生まれます。自分にもできた、認められた、感謝の言葉（・微笑み）をかけられた・・・すると、プラスの感情がどんどん蓄積されていき、成功体験を重ねることによって自信へと繋がっていきます。

子どもたちの自信に繋げていくためにも、職員が何を考え行動し、子どもたちのために何ができるのか、一人ひとりの心を育むためにどうすればよいのか。

職員（大人）から子どもたちへ。子ども・友達同士で認め合える環境（・居場所）作り等、日々の活動を考える上で一番大切にしているところであり、やり甲斐でもあります。おやつ作りだけでなく、日々の活動を通して大人も子どもも尊重し合える場、お互いの学びの場、成長できる場を作ることができるよう頑張ります。　（あさがおクラブ　岩崎　彩）

地域生活支援の報告　グループホーム

彼ら　彼女らに寄り添う一日

「ただいま～」
「お帰りなさい」
いつもの挨拶でホームの生活が始まる。
　連絡帳を出す時の顔色、手の洗い方、おやつの食べ方で今日何があったかを想像する。
　彼女たちは何を思っているんだろう、何を感じているんだろう。笑顔で話す会話はいつもと同じだろうか？
　こちらの価値観を押し付けてないだろうか？
　ここは生活の場、安心できる場所、常に見つめている先には彼女たちがいる。彼女たちの心がある。そんな心を文字に書き起こす、彼女たちになりきって。

野菜は食べたくないよね、
お店の物を欲しくなっちゃうよね、
これをしないと次の行動ができないよね、
何を言ってるのか分からない時があるよね。寂しい心が見えてくる。
落とした視線に言葉が見える。
大丈夫だよって、いつも、いつも、伝えていたい。
何も心配しなくていいんだよ。
明日が不安だろうけど大丈夫。
ほら、笑ってるでしょ。
今、笑顔でしょ。

「ただいま」
彼女たちの心が見えますように。
「お帰りなさい」
大切に思う気持ちが届きますように。
今日もこの言葉から一日が始まる。
（世話人　濱田　美枝子）

ホームで一番好きな瞬間

　フラワーホームに入職してから４ホームほどを経験した。その中で、昨年復職して配属された「でいじー」では、思い出深い再会を果たした。
　かれこれ４年前、入居受け入れを担当したＷさんとの再会だ。

　言葉でのコミュニケーションというよりは、ノンバーバル（非言語の）コミュニケーションが主になる。
　居室で横になり広告を見たり、お布団に横になったりとマイペースに自分時間を過ごしている。時折、暇に過ごしているのではないかと思い、居室にお邪魔する。一緒に広告を見たり雑誌を取り合ったりしながら、一時を過ごす。
　話しかけると、Ｗさんは表情や態度で思いを伝え、答えることができる。
　それを感じとる。私はこの瞬間が一番楽しい。
　いちいち声に出して私の感じ取った思いが正しいか、更に言葉にする。

　嬉しいとじーっと見て顔を近づけたり、クスクスと笑うこともある。
　いい時ばかりではなく、「あっちいけ」と言わんばかりに手で押したり、「嫌だ」と言わんばかりに思いっきり髪の毛を掴んできたりもする。
　感情の起伏はその力加減で測る。そうやって向き合っている。
　中でも私が一番好きな瞬間は、散髪と洗髪後のドライヤーの時だ。胸に背中を預けるようにもたれ、なんとも気持ち良さそうな表情をする。こちらも嬉しい。
　こういう「お互いが良い気分」という空間・瞬間を作りたい、とＷさんの表情を見ていつも思う。

　終の棲家にと我が子を花の会のホームに託された、Ｗさんのお母さん・お父さん。
　今日も安心して見守ってくれているだろうか。
（世話人　西井　嘉奈子）

就労相談支援の報告

15 歳～49 歳 の方の就職活動をサポートします！

三島地域若者サポートステーション

学生さん・教育機関の皆様

三島地域若者サポートステーションは、15 歳～49歳の就職活動のサポートを無料で行っています。「どんな仕事が自分に合っているかわからない」、「働きたいけど、なんだか不安」、「人と話すのが苦手」など、仕事に関する相談ができる支援機関となっています。サポートできる内容として、個別相談、グループワーク（コミュニケーション練習、ストレス対処、パソコン教室など）、職場体験がご利用いただけます。

通常、高校・大学（定時制、通信制を除く）に在学中の方は原則ご利用いただけませんが、2022 年１月～３月の期間は、学校をやめようと考えている方、進路が決まっていないが卒業を予定されている方を対象に、早い段階からご利用いただくことが可能となっています。今後のことをサポステで相談するか、しないかを、まずはご相談に来ていただけたらと思います。

Q & A

Q1 利用するにあたり、利用条件はありますか？

A1 年齢が 15 歳～49 歳で、現在仕事をしていない方が対象になります。

Q2 保護者・教員のみの相談でも良いの？

A2 もちろんご相談いただけます

Q3 週何回程度通うものなの？

A3 自分のペースでご利用いただけます。

Q4 利用者は何人ですか？

A4 新規利用者は、2021 年４月～12 月末までが 130 人、2020 年度１年間では 140 人でした。

三島地域若者サポートステーション

住　所　：　高槻市高槻町 4-17
電話番号　：　072-668-4632
メール　：
saposute-mishima@hananokai.info

申し込みフォーム

（三島地域若者サポートステーション　安岡　大輝）

希望の家

一泊忘年会　に行ってきました！

２年ぶりに一泊忘年会を行いました。午前中は通常通りの作業をして、昼食後、電車と車で分かれて出発。

16 時ごろ、無事に全員が池田市にある不死王閣に到着。メンバーたちは各班に分かれて慣れた様子で、お馴染みの部屋に入って行きました。少し休憩してから大浴場へ。大浴場は、ほぼ貸し切り状態。広々としたお風呂にじっくりと浸かって、ゆったりとしていました。まるで、普段の疲れが溶けていくように。

さて、お楽しみの宴会。色とりどりの料理が次から次へと出てきて、メンバーたちの口へ。いつもなら、カラオケ大会で大いに盛り上がる時ですが、今回は、新型コロナウイルス感染防止のためにカラオケは中止。しかし、メンバーが持ってきたタブレットなどで自分たちの好きな音楽をかけると、段々と盛り上がってきました。でも、そこはコロナの感染防止の下、普段の70%ぐらい。

翌日、10時頃にホテルを出発し、12時前に高槻に到着。餃子の王将で昼食をとり、解散しました。

この約２年間、自粛していたメンバーたち。楽しんでいる姿を見て、少しは気分転換ができたかなあ、って嬉しく思いました。

（希望の家　森田　憲司）

法人の報告

謹賀新年

理事長：山田義昭　　業務執行理事：成瀬修
理事：津田茂樹　山名利美　山口由美子　徳野裕季
監事：南出満　上田充孝　　評議員一同　管理者一同

グループホームって何だろう？

グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワークの活動を通して

去る、11月24日（水）、大阪・奈良・兵庫の標記のネットワーク参加団体の19名（当事者８名）が、厚生労働省に署名（オンライン署名：36,737 人、自筆署名10,781 人）を提出し要望を伝え、意見交換を行いました。ご協力、ありがとうございました。当日は記者会見も行い、福祉新聞にも行動が紹介されました。

署名活動は締切らせていただいていますが、12月に入っても続々と全国から届けられ、オンライン署名：37,000 人、自筆署名：30,300 人を超えており、この問題への関心の高さがうかがえます。花の会でも、直接送られた方もあり、実数は定かではないのですが2,000人を超える自筆署名をいただきました。また、障害者団体にも自筆署名730人、団体署名５団体が寄せられました。

◆先送りされた制度変更

多くの方が、今回の制度再編が諮られようとしていることを知られていませんでした。その結果、３年後にどうなるのか、緊迫した不安がメンバー・家族にもたらされ大きな反響を呼んだと言えます。厚労省も「まとめ」（改正案）を審議会で諮るのを５月以降に行うとし、提案も「通過型 GH」の新設という内容に大きく「後退」したものとなりました。来年秋の国会に上程が先送りされるとのことです。

しかし、今回の再編は「通過型 GH」の評価を問うだけではなく、国や審議会の委員がどのように GH を考えているのかが、浮き彫りになりました。今後、増え続けるであろう GH の必要数を整備しなければならない中、予算や効率等の課題を「利用者の希望がある（？）」ことを理由に、再編がすすめられることが危惧されています。根本から障害当事者の地域生活を考える中で、GH の在り方も問い直していかねば、常に再編の危機が迫ることとなります。法人・地域の中で GH の生活を考える機会を作っていきましょう。

（理事長　山田　義昭）

虐待防止委員会の報告

11 月９日に 14 回目の虐待防止委員会を開催しました。10 月 16 日の職員全体会議で採択した虐待防止宣言（前号のニュースで紹介）、10 月７日にレスパイトで起きた虐待通報（車に乗りたがらないメンバーを強引に乗せようとして怪我を負わせる）、事故報告・ひやりはっと分析、第三者委員による事業所巡回、２月の虐待防止研修の企画案について意見交換をしました。レスパイトで怪我をされたメンバー、ご家族には改めてお詫び申し上げます。後日、身体的虐待と認定されました。職員の支援技量不足による強引な対応、人事異動が少ない閉鎖的な環境が原因だと考えています。職員の人事交流やこれまでの支援についての見直しを行い、改善を図ってまいります。

（虐待防止委員会　成瀬　修）

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円